

令和5年度 中瀬小学校 学校評価

I 令和5年度の本校の取組み

学校教育目標 : 友達を大切にし、広い心で助け合う

豊かな心

確かな学力

健やかな身体

自分らしさの発見・かかわる力の育成
 ○「協働・自立」をキーワードとした特別活動の充実
 ○異学年交流・なかぜっ子活動（集団登校・なかぜっ子清掃・なかぜっ子遊び）の推進
 ○地域の方と接し、人間関係能力を育成する

望ましい学習態度の育成
 ○教科担任制による授業改善
 専門性を高めた充実した授業とICTを利用した協働した学習で、確かな学力を保证する
 ○話し合い活動を核とした、表現力・コミュニケーション能力の育成

望ましい生活態度の育成
 ○挨拶の励行・外遊びの奨励。児童会、委員会活動での取り組み。学校行事、外遊びをととした体力の維持増進
 ○健康な生活・食習慣の確立
 ○「自分の命は自分で守る」 自助意識の育成

II 自己評価

肯定評価の割合（％）

		児童	保護者	教員	
なかよく	1	仲の良い友だちがいる。	95.7	94.7	100.0
	2	友だちと一緒に助け合って 活動することができる。	88.7	94.6	100.0
	3	クラスにいると楽しい。	91.4	92.8	100.0
かしこく	4	めあてに向かって頑張っている。	89.7	83.5	91.7
	5	授業で「分かった」「できた」「成長した」と感じている。	87.8	91.2	97.2
	6	自分の考えを、友だちに伝えることができる。	80.0	74.6	58.3
ぜんりよく	7	進んで挨拶ができる。	79.6	74.7	47.2
	8	外で遊ぶことができる日は、よく外で遊ぶ。	73.1	69.7	94.4
	9	自分の命を守るためにどうしたらいいかが分かる。	95.2	85.6	88.9
その他	10	学校で身に付けたことが、自分の将来の役に立つと思う。	90.8	71.2	77.8
	11	学習や生活のことで困ったときに、先生に相談しやすい。	72.4	90.9	97.2

III 分析・考察

- ・概ね肯定的な評価の割合が多く、学校教育目標「友達を大切にし、広い心で助け合う」を意識し、教育活動に取り組んできたことが表れている。
- ・ほとんどの児童は、友達と良好な関係を築いている。いじめ防止に向けての本校の取り組みが成果を上げているが、いじめ0に向けてさらなる取り組みが必要である。
- ・「挨拶」は中瀬小学校の子供たちの課題としてとらえている。また、子供たちの評価と教職員の評価の結果に大きな相違が見られる。家庭での挨拶か、登校時の挨拶か、学校内での挨拶かで、子供たちの挨拶に対する評価が違うのではないかと。より具体的な場面を想定して指導し、効果を確かめていく必要がある。

IV 学校運営協議会における学校関係者評価

- ・落ち着いた様子が見られる。子供たちの興味関心を引き出す工夫がされていて、集中させる工夫がされていた。また、地域や保護者ボランティアが学校教育に参画し、子供たちの教育の一助となった。
- ・挨拶については、学年によってとらえ方が違っていたり、場所や人によっても違っていたりする。できている場面もできていない場面もある。挨拶についての意識をさらに高めていきたい。
- ・いじめられた児童が「先生に伝えなくてもいい」と保護者に言った場合でも、保護者が気になる場合は、学校に伝えてもらった方がよい。また、「いじめ」に対する学校体制を理解してもらう必要がある。

V 今後の改善方策

- ◇いじめ防止のために、保護者とのコミュニケーションを密にして、情報をより早く拾い集め、いじめの早期発見につなげていく。また、児童に対する相談体制を整え、児童の様子を細かく見取っていくと同時に、早期発見後の対応についても、より組織的な対応ができるようにする。
- ◇PTA総会や懇談会など様々な機会を活用し、学校のいじめ防止に対する方策や体制を伝え理解していただくことで、いじめ防止に向けて保護者からの情報を生かす。
- ◇進んで挨拶ができる児童を育てていくために、中瀬っ子応援団を活用したボランティアを広げ、保護者や地域の方とのふれあいの中であいさつの機会を増やしていく。登校班のリーダーが地域の人に進んで挨拶をすることができるように呼び掛け、意識を高めていく。